インターネットはロシア文化のストリートである

——プッシー・ライオットから特別軍事作戦下の愛国的パフォーマンスまで

上田　洋子

ロシア文学・演劇研究者
株式会社 ゲンロン代表

2023 10.21 土 15:45〜16:45

チモフェイ・ラディヤ「おーい、きみ、ぼくを愛して」2015 年（ウラジオストクのアートセンター「ザリャー」にて上田撮影）

2023年度日本ロシア文学会大賞受賞記念講演

富山大学 五福キャンパス共通教育棟 C21 教室

〒930-8555　富山市五福 3190

インターネットはロシア文化のストリートである

ロシアではストリートの文化が伝統的に力を持っていました。

まさか、と思われるかもしれませんが、文学だけを考えても、ゴーゴリは『ネフスキー大通り』(1835) という、都市のストリートを主題とした作品を書いています。ドストエフスキーの『悪霊』(1872) では、アジビラを準備する活動家たちが陰謀を巡らせます。マヤコフスキーには「ストリートからストリートへ」(1913) という詩がありますが、ストリート=街、そと、道は革命期の芸術のキーワードのひとつです。ほかにもストリートを舞台とする作品は枚挙にいとまがありません。

ソ連崩壊後のロシアでは、ストリートはますます文化・芸術の場となっていきます。人々はストリートに出て、ソ連時代には失われていた自由を謳歌するアート・パフォーマンスやアクションを行います。それらのパフォーマンスはメディアの拡張とともにインターネット空間にも進出していきます。たとえばメーデーのデモをアートのイベントに読み替える「モンストラーツィヤ」(2004-) は、ネット上で中継され、時差と共に街から街へとリレーされます。プッシー・ライオットやヴォイナらアート・アクティヴィストたちはアクションの動画を迅速に編集して YouTube に投稿し、炎上を狙います。社会運動の文脈では、デモの他にプラカードを持って街頭に立つピケが頻繁に行われますが、写真を撮ってネットに投稿することが、街頭での運動とセットになっていくのです。

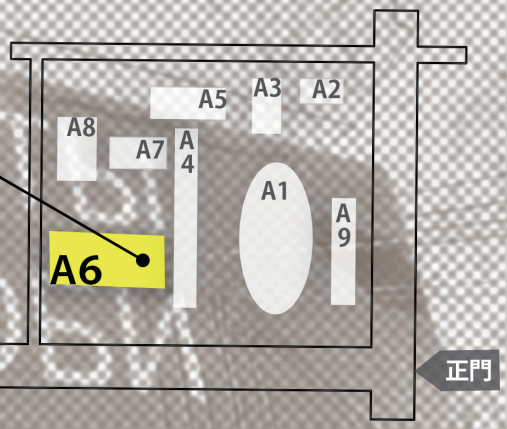
現在、特別軍事作戦下でさまざまな反戦運動がネットを介して広がっています。また、6月に起こったプリゴージンとワグネルの反乱は、明らかにネットでの拡散を意識したパフォーマンスでもありました。ストリートからネットへ、という手法は広く用いられています。

街やインターネットというあらゆるひとに開かれた空間で、アーティストや活動家がどのように作品を展開し、社会的な主張を表明してきたのか。現在の状況も踏まえつつ、探ってみたいと思います。

2012 年 5 月 1 日にノヴォシビルスクで実施された「モンストラーツィヤ」より。要求を掲げない楽しいプラカードを掲げてパレードをする。撮影 =Майя Шелковникова 提供 =Артем Лоскутов

Pussy Riot による赤の広場のロブノエ・メストでのアクション「ロシアの反乱」、2012 年。
撮影 =Denis Bochkarev CC BY-SA 3.0

富山大学
五福キャンパス
共通教育棟
C21 教室 (A6)



上田洋子（うえだ・ようこ） ロシア文学・演劇研究者、株式会社ゲンロン代表

1974 年生まれ。株式会社ゲンロン代表。ロシア文学者。博士（文学）。著書に『チェルノブイリ・ダークツーリズム・ガイド 思想地図 β 4-1』（調査・監修、ゲンロン、2013）、『瞳孔の中 クルジジャノフスキイ作品集』（共訳、松籟社、2012）、『歌舞伎と革命ロシア』（共編著、森話社、2017）、『プッシー・ライオットの革命』（監修、DU BOOKS、2018）など。企画に「メイエルホリドの演劇と生涯：没後 70 年・復権 55 年」展（早稲田大学演劇博物館、2010）、ゲンロン H.I.S. チェルノブイリツアーなど。